

**第3回 子育て委員会編**

北海道PTA連合会

令和4年12月19日(月) 発行

12月3日(土)に第3回子育て委員会が開催されました。各地区の子育て研修会の交流や今年度の研究内容のまとめ・次年度の方向性について話し合われました。

**1 地区子育て研修会の実施状況の交流**

地区子育て研修会報告書を用いて、報告しながら気づいた点等を発表しました。

②小樽市 テーマや講師はある程度、前年に決めておく方が円滑に運営できるのではという意見があり、本年から実施している。大人がネットの利用等についてはまずは学習しなければと感じた。

⑤旭川市 旭川は母親委員会のまま運営しており、女性のみ参加を継続している。例年、分科会に力を入れており、30名弱の委員さんを、まずチームに分けて、それぞれのチームごとに講師等を選定しているが、今まで決まらなかったことはない。今年も各分科会で非常に活発に開催された。

→ 分科会の同時開催について

同時開催ではなく、日時をずらして開催したら更にアクティブになるのでは。⇒役員さんの負担を考えながら検討

⑧宗谷管内 今年は担当が豊富町PTAだった。あいにく悪天候に見舞われたが、内容は非常によく一体感が生まれた。年の後半になると悪天候が多くなるので、開催時期は今後検討してもいいかもしれない。

⑩函館市 準備が上手に行かず、開始が30分くらい遅れてしまった。久々に対面での開催だったため、広報活動も上手にいかず少人数での開催だったが、参加してくれた方には大好評の内容だった。

→ 研修会や研究大会の開催広報について

来た方からは好評を頂けるのに、そもそも参集人数が少ないのは勿体ない。プリント等の配布物が堅苦しくて、興味がわからない。PTAの役員をやっていない人は、見ずに捨てられていることもある。

⑪渡島管内 リモート開催(各校の割り当てあり)。オンラインの場合、利便性は高く段取りしやすいが、盛り上がりという点では物足りない感じになる。また、機材トラブルに対する対応が不安定。交流をどうするかを検討。

⑫帯広市 コロナ前後でご来場いただける人数制限が出てきてしまう。完全対面で上限を設けると広報も塩梅を考えないとならない。

→ 収容場所について

野外での実施も考えてみると楽しいのでは。

⑬南空知 オンラインで実施したが、できればリアル開催できればよかった。対談形式ではなく、レクチャー形式だったのも残念だった。内容が高度なものでないなら、対談形式がよかったのでは。

⑳釧路市 お招きしたい先生の時間が平日の昼ということもあり、リアル参加は少なかったが、視聴

回数は増えている。視聴いただいた方からも好評。

→ 性教育について

対面形式で受けるだけでなく、項目的にもオンライン形式が適していた。ご講演いただいた先生も話上手の方だった。

## 2 子育て委員会の研究内容等に係る交流

### (1) 対面かネット利用か

- ・対面形式にこだわって開催している。
- ・講演会+アンケートに、感想を述べる場を作れば良いと思う。
- ・オンラインがの是非ではなく、講演内容によるのでは。内容に応じて、対面向きなのかオンライン向きなのかがあるのではないだろうか。

### (2) 組織を活性化させるためには

- ・連合会や子育て委員会の活性化は、各地P連が活性化する必要があり、各地P連を活性化させるためには、各校のPTAの活性化が必要不可欠。
- ・大人組織を活性化するためには、子どもを含めて考えないと無理では？

## 3 今年度の取組（活動計画・研究の視点から）成果と課題

### (1) 子育て委員会の活性化と組織の充実の在り方

#### 《成果》

- ア 昨年同様、新型コロナ感染対策を講じながらの実施となったが、昨年の経験を生かして研修会を実施することができた。
- イ 集合しての講演会、時短、参加者限定、複数会場でのZoomによる講演会実施、単Pごとに会場を設置してオンラインによる講演会と分科会実施、オンデマンド動画配信や再視聴できる対応など地域性に合わせて工夫して実施ができた。
- ウ オンラインによる講演会にはむずかしさもあるものの、ブレイクアウトルームなどの機能を使い、聞きっぱなしではなく、対話の形も実現することができた。

#### 《課題》

- ア オンライン開催の準備、運営の技術や機材の費用等、誰にでもできる形ではない。
- イ オンライン視聴側の環境整備が必要である。
- ウ 新型コロナの状況に応じ、より参加者を増やすための研修会内容の工夫が必要である。実技・体験など。
- エ 顔を合わす機会がないことにより、組織体制存続や引継ぎ業務に支障が出ている。
- オ 地区の事務局の任期が短く、引継ぎがスムーズにできない状況があり、その改善策はないか。
- カ 座席くじ引き、名札作りなど感染対策の徹底に難しさがあった。

### (2) 「生きる力」を育てる家庭教育のあり方

#### 《成果》

- ア 家庭教育の在り方、親子のかかわり方を見つめ直す機会になった。
- イ ICT機器の使い方や家庭でのルール作りなど、子どもたちが上手にメディアと接していく方法を模索する機会となった。

ウ 家庭と学校の連携が必要であることも確認できた。

エ 今後も参加者のニーズに応える分科会・講習会を実施していく。気軽に参加できるように工夫し

ていく。

《課題》

- ア ポストコロナにおける家庭教育の在り方について、経験を生かした実践が必要である。
- イ 「GIGAスクール」等、ネットに関わる家庭教育の重要性への理解が必要である。

(3) 子育て委員会の話題提供源としての広報活動

《成果》

- ア 道PのHP投稿について体験研修を行い、各地区との交流への足掛かりとした。
- イ 昨年度より多くの投稿があり、各地区での実践や道Pの取組を発信することができた。
- ウ 今後も、全道の特徴的な取組を、HPや会報誌、各ブロック研など様々な場を使って計画的に広く普及する。

《課題》

- ア HPへの投稿の仕方について、会員が活用できるよう取組・改善を推進する。
- イ 広報紙（紙による発信）のよさを見直す機会である。
- ウ ペーパーレスや活字離れへの工夫・改善とネットとの共存を模索する。

(4) 令和7年度提言に向けた取組の準備

《成果》

- ア テーマの候補例を話し合った。  
(例) ネットワーク、情報・メディア、外部との連携、食（給食）について

《課題》

- ア 担当地区の決定、提言に向けた役員の任期継続等、見通しと早目の準備が必要である。
- イ 事務局と連携し、スムーズな計画と準備が理想的である。

## 4 次年度の方向性

(1) 子育て委員会の活性化と組織の充実の在り方

- ア 「活動を止めないPTA」を目指し、活動の目的・趣旨等の共通理解に努める。
- イ 会議について、集合型・Web型等、実態に合わせて開催する。

(2) 「生きる力」を育てる家庭教育のあり方

- ア 子育ての悩みを共有する場を設定し、意見交流や地域関係機関と連携できるよう情報発信を推進する。
- イ 関心の高いテーマをもとに家庭教育の在り方を研修し、取組の交流をする。

(3) 子育て委員会の話題提供源としての広報活動

- ア ホームページによる継続的な情報発信を推進する。
- イ ホームページの周知をし、投稿・閲覧を呼びかけ、会員による活用の促進を図る。
- ウ 各地区の取組の情報共有化と参考資料の整備をする。
- エ 広報紙コンクール参加への呼びかけを推進する。

(4) 令和7年度提言に向けた取組の準備

- ア テーマの絞り込みや、担当地区を想定する。
- イ 提言までの取組や計画の大枠（予定）を決める。